

令和6年度在宅医療・介護連携推進事業の実施報告書

1 事業趣旨

2040年までに小諸北佐久地域の医療・介護の切れ目ない連携により、自分（地域住民）が望む場所で自分らしく最期まで暮らすことができることを目的として事業を実施した。

2 在宅医療・介護連携推進事業の取組状況

(1) 現状分析・課題抽出・施策立案

切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築に向け、現状の分析、課題の抽出、施策の立案を行う。

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
<ul style="list-style-type: none">・地域の医療機関、介護事業所の情報収集と整理・あさまケアネット内に掲載された地域の医療機関、介護事業所の情報収集と整理
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
<ul style="list-style-type: none">・事務局会議の開催・多職種連携研修会後のアンケート調査結果について・ICT利活用について
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築推進
<ul style="list-style-type: none">・多職種連携研修会（意思決定支援について・薬剤師との連携・ICT利活用について）・口腔ケアネットワーク研修会・人生会議の動画作成

(2) 対応策の実施

切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築に向け、事業検討した対応策の実施を行う。

(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
<ul style="list-style-type: none">・あさまケアネットホームページの更新
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
<ul style="list-style-type: none">・各行政の地域包括支援センターによる相談受付
(カ) 医療・介護関係者の研修
<ul style="list-style-type: none">・口腔ケアネットワーク研修会・多職種連携研修会の開催・セキュリティ研修会・ACPファシリテーター研修（3名参加）

(キ) 地域住民への普及啓発
・小諸市・・・講演会「災害は、忘れる前にやってくる」災害を教訓にした取り組みについて
・軽井沢町・・・講演会「いざという時のために正しい知識を身につける」救急車を上手に利用する取組について
・御代田町・・・講演会「人生会議について」
・立科町・・・講演会「人生会議について」

3 Net4Uの利用実績状況（2015年～2024年）

項目	数値
対象患者数	364
登録事業者数	33
連携事業者数	16

4 小諸北佐久医療・介護連携推進協議会の活動状況

(1) 協議会の構成団体 {順不同}

- ① 小諸北佐久医師会 ② 北佐久歯科医師会 ③ 小諸北佐久薬剤師会 ④ 長野県佐久保健福祉事務所 ⑤ 小諸高原病院 ⑥ 小諸医院・小諸病院介護医療院 ⑦ 柳橋脳神経外科 ⑧ 軽井沢病院 ⑨ 浅間南麓こもろ医療センター ⑩ 小諸市介護保険事業者等連絡会 ⑪ 小諸市社会福祉協議会 ⑫ 軽井沢町社会福祉協議会 ⑬ 御代田町社会福祉協議会 ⑭ 立科町社会福祉協議会 ⑮ 長野県訪問看護ステーション連絡協議会 ⑯ 長野県介護支援専門員協会 ⑰ 長野県介護福祉士会 ⑱ 信州訪問リハビリテーションネットワーク ⑲ 長野県栄養士会 ⑳ 長野県歯科衛生士会 ㉑ 小諸市地域包括支援センター ㉒ 小諸市 ㉓ 軽井沢町 ㉔ 御代田町 ㉕ 立科町

(2) 協議会の開催

- ① 第1回小諸北佐久医療・介護連携推進協議会 {令和6年8月2日(金)}
 ② 第2回小諸北佐久医療・介護連携推進協議会 {令和7年3月18日(火)}

(3) 事務局会議の開催

〈年間11回開催〉 4/23・5/30・6/28・7/19・8/28
 9/25・10/21・11/19・12/23・1/29・2/13

〈協議内容〉

- 1) ICT利活用について (Net4U、ケアプランデータ連携システム)
- 2) 人生会議動画について
- 3) 多職種連携研修会の内容について
- 4) 在宅医療・介護連携の課題について
- 5) 在宅医療・介護連携に関するアンケート結果について
- 6) 次年度の事業内容(案)について

(4) 小諸北佐久医療・介護連携推進協議会多職種連携研修会開催

① 第1回多職種連携研修会

〈テーマ〉「どうする？意思決定支援」

～ その人の人生、その人が主人公になれるために ～

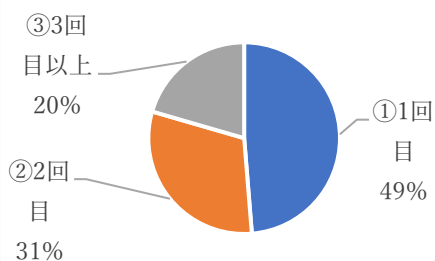
〈開催日時〉令和6年9月21日(土)

〈講師〉岩手保健医療大学 教授 三浦 靖彦 先生

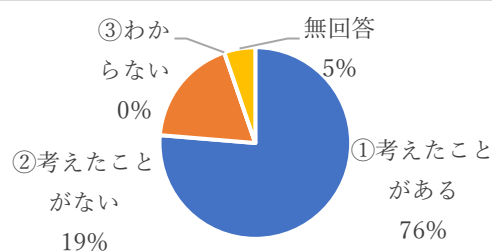
〈参加人数〉55名

〈アンケート結果〉

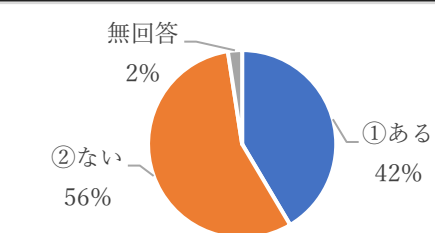
○これまでに、意思決定支援研修会に参加したことがありますか？



○自身の「将来に備えた医療や介護について考えたことはありますか？」



○専門職として、意思決定支援について、関わった経験がありますか？



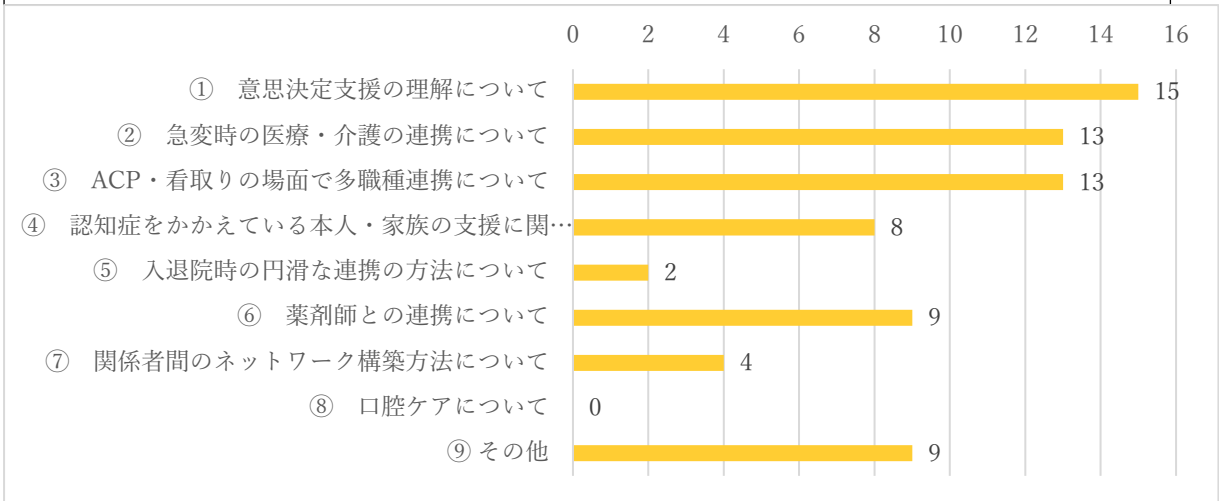
○どのような場面で関わりましたか。(一部抜粋)(前設問で、「①ある」と回答した方)

- レスパイトで入所された方が、状態悪化し、看取りになってしまったケース。本人が意思を伝えられる状況ではありませんでしたが、奥様と話をし、在宅看取りの調整を行いました。
- 退院支援場面で、独居の為、退院したくないという方の今後の生活を一緒に考える事で不安を和らげるような関わりがありました。
- 高齢者施設だとリビングウィルとご家族の気持ちが合わない場合が多いです。中間の役割として決定を任せられる時もあります。Drもご家族はどうなのと必ず聞きます。ですが、リビングウィルの認知を広めていくことが大切かと思いました。
- 看取りの際、入居時より、どのような生活を過ごしていきたいか身体状況、変化時も、その都度、ご本人、ご家族の意向を確認し、望むべき姿を共に探している。
- 延命治療の選択、胃瘻の選択など
- 身寄りのない緊急ショート利用の方が夜間急変された時
- 最期に残された日数で、どう過ごしたいか。家族としてどうしていけばいいのか
- ALSの方、近い将来呼吸器をつけるかどうか→つけない選択となりました

○専門職として意思決定支援をどのように推進していけばよいと思いましたか？（自由記述）

- ソーシャルワーカーとして、意思決定支援の場面に携わることも多いですが、ライフイベント後に関わることも多いので、元気なうちに意思決定につながる支援が必要でと思いました。日本の「死」に関わる話題をさける印象があるので、地域に浸透していったら良いと思いました。
- 医療・介護職員が意思決定支援について、よく知っておくことが必要なのはもちろんですが、その上で、それぞれの地域に対して、どう、認知していくかだと思います。もしバナゲーム等に絡めて広めていければと思います。
- 元気なうちから色々考えておけるよう、広く、周知していくことが大切かと思った。
- 入院中には、病院側としての入院期間等が決まっている中で、専門職として押し付けになってはいけなくて強く感じました。限られた時間の中でも、しっかり向き合っていきたいと思います。
- 自分勝手な意見「思い込み」でなく、あくまでも本人の人生をどう送るかを考えさせられました。
- ご本人とのかかわりを沢山持ち、その方を知る・・・から始まります。なかなか難しい話ではありますが、自然な形で話し合える様になっていける様な努力が必要かと思います。
- 毎年参加させていただき、施設職員に ACP についての学びが深まるような機会を作り、各専門職が同じ方向性が見えるような体制作りをしていくことが良いかと感じました。
- ご家族の意思決定の参考に話を聞かれる事が多く、意思決定に反映される方が多く少し不安になるときもあります。（半分、認知がある方だったりすると少し不安になります。
- 地域で連携していく事が必要と思いました
- 医療に活かせるような研修だったので、実施していきたいと思う。話しやすい関係性を作っていく事が大切だと思う。患者さんと家族を繋げる役割ができたらいいなと思う
- 家族が来局された時、入院だった場合にみんなで話し合っておくことをお勧めできるかなと思いました。
- 勉強会等で地域の人たちに伝えていく。
- 普段から関係性を作っておき、何かあった時も何もない時も色々な話ができる人になるようにしていきたいです
- まずは、自分が人からこの人にだったら話したいと思われるよう、日頃から意識したい。また、もしバナゲームを取り入れて、気軽にこのような話ができる土壌を作りたい。
- 「ものがたり」に視点を置いた支援が必要だなと感じました
- 自分の人生について、どのように過ごしたいのか、関係性を築いたところから本人がその気持ちになった所からか。
- 施設では入所の時に意思決定をご本人から聞きます。ご利用者の生活を共にしていく中で、ご利用者の思い、考えを聞き取る、聞き出す、そういった役割も持ちながら支援していきたい。ご利用者の ADL が低下したり、入院したりそういう場面で看護師やご家族にこういう気持ちでいらっしやいました。こういう考えですと胸を張って言える、そういう人になりたいです
- 元気なうちに、本人にどう生きていきたいか聞いてあげる事から始める大切さ。

○今後、多職種連携研修会で学びたい内容はありますか？



② 第11回口腔ケアネットワーク研修会

〈テーマ〉気づいて欲しいオーラルフレイルのチェックポイントについて

〈開催日時〉令和6年11月16日（土）

〈講師〉松井歯科医院 理事長 松井 智 先生

〈参加人数〉52名

③ 第2回多職種連携研修会

〈テーマ〉「私たちの知らない薬剤師の世界」

～その世界を知って、もっと連携に活かしていこう！～

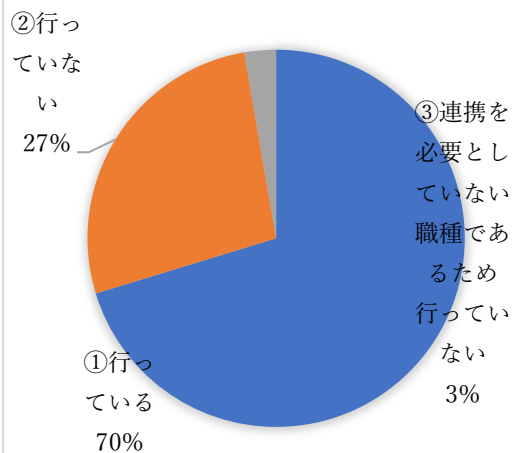
〈開催日時〉令和6年12月18日（水）

〈講師〉小諸北佐久薬剤師会 池田 伸也 先生・沢尾 俊貴 先生

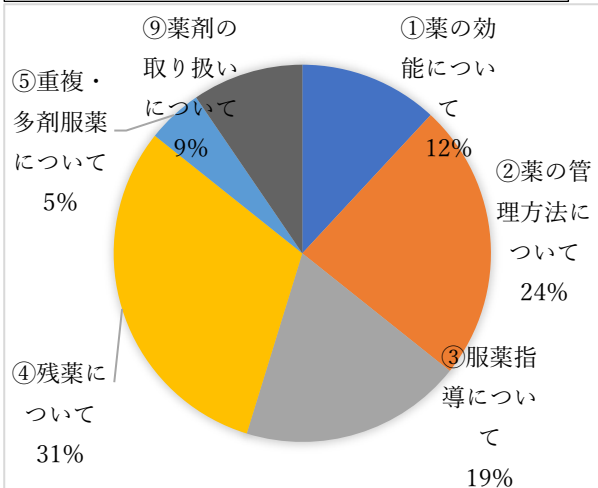
〈参加人数〉57名

〈アンケート結果〉

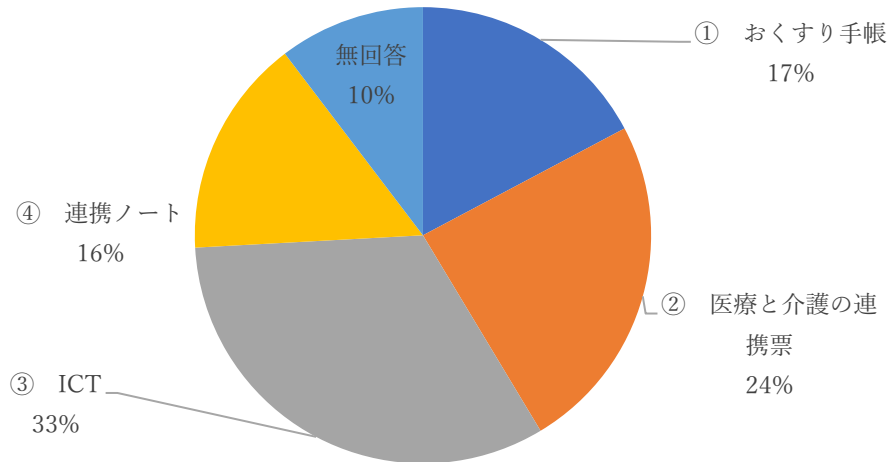
○日頃、業務上で薬剤師との連携を行っていますか？



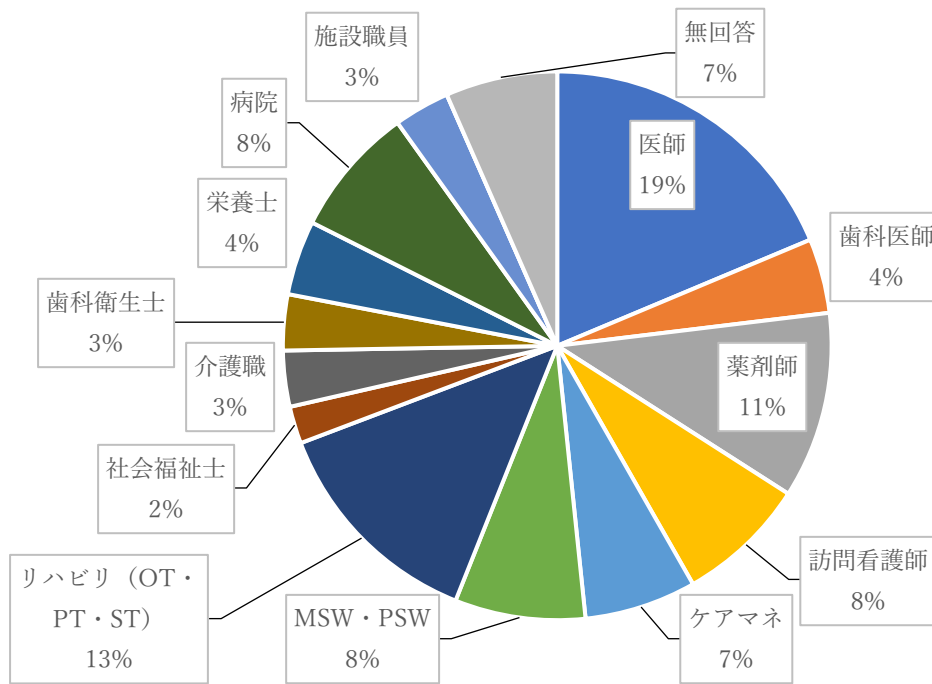
○どのような場面で連携を取られていますか？



○薬剤師とどのような情報共有の手段があれば連携が進むと思いますか？



○今後、多職種連携研修会で連携を深めたい職域・職種はありますか？



④ 第3回多職種連携研修会

〈テーマ〉「どうする？意思決定支援」第2弾

～そもそも『意思決定』って何？ 『支援』って何？～

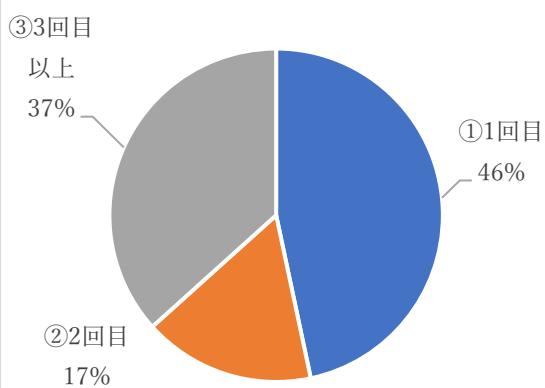
〈開催日時〉令和7年3月23日（日）

〈講師〉岩手保健医療大学 教授 三浦 靖彦 先生

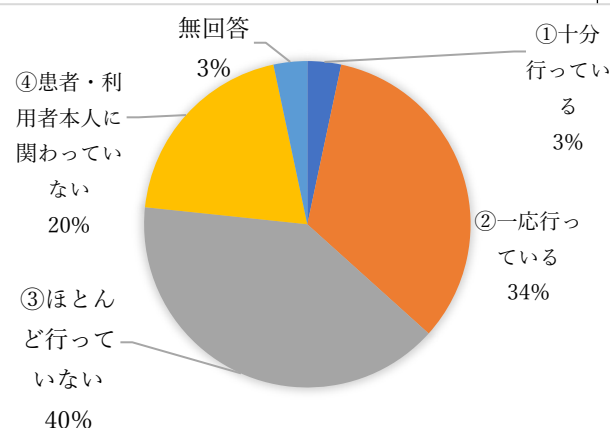
〈参加人数〉39名

〈アンケート結果〉

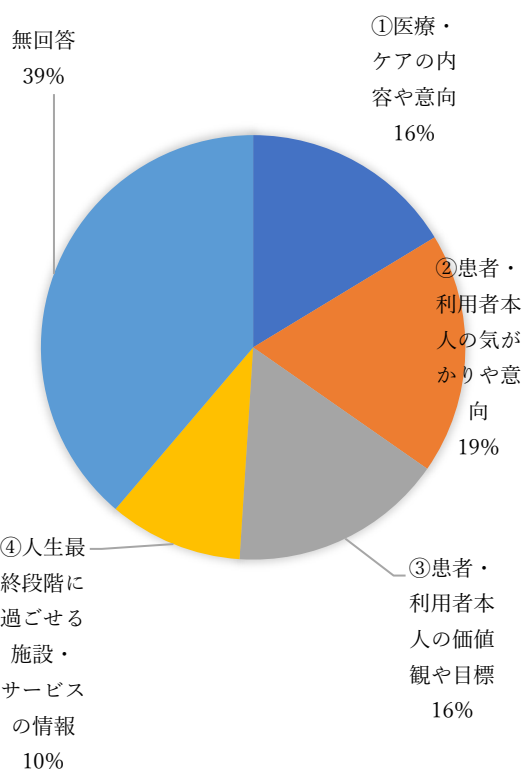
○これまでに、意思決定支援研修会に参加したことがありますか？



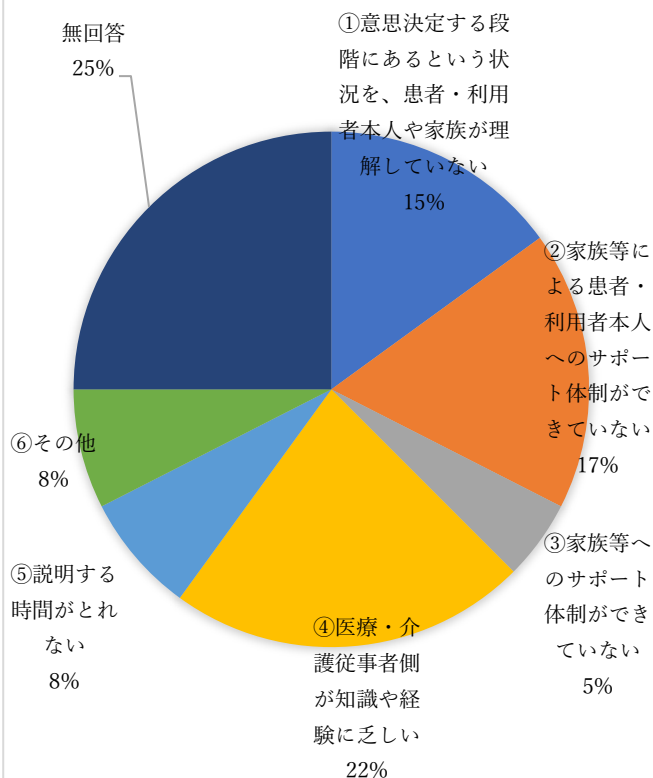
○担当する患者・利用者本人と人生の最終段階の医療・ケアについて、十分な話し合いを行っていると思いますか



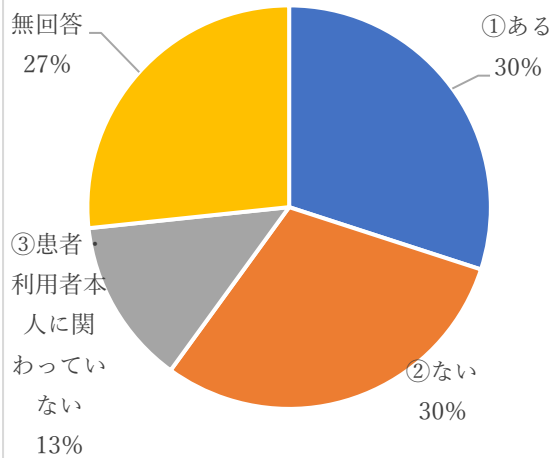
○どのような内容を話し合っていますか



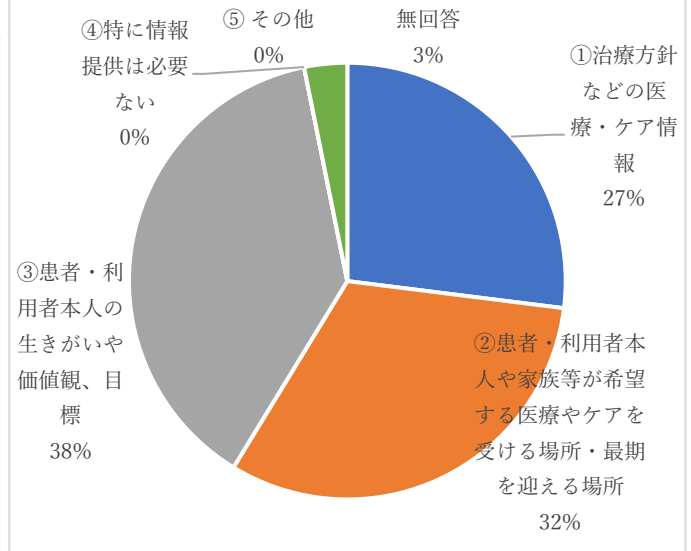
○担当する患者・利用者本人に対し、意思決定支援における医療・ケアについて話し合うにあたり、難しいと感じる事は何ですか



○医療・ケアの方針について、医療・ケアチームの中で意見の相違を感じることがありますか



○患者・利用者本人の医療・ケアについて、どのような情報共有をすべきと考えますか。



○どのような場面やどのような事で意見の相違を感じましたか

- 支援者、専門職の関わりにより、「この人はこういう人だ」という決めつけでかかわりを持ってしまう
- 患者の家族が望む医療とケアチームとの間に差が大きい
- 医師とのチーム連携の難しさ
- 医療面での対応を優先になってしまうため、一方的な説明になってしまう
- 治療方針に対して、患者本人の意向があっていないことがある